

# simc News Letter

Sendai International Music Competition

2022年9月20日号

## 仙台国際音楽コンクールニュースレター

第8回仙台国際音楽コンクール【開催日程】ヴァイオリン部門 2022.5.21(土)~6.5(日) ピアノ部門 2022.6.11(土)~2022.6.26(日)

### ヴァイオリン部門 堀米ゆず子審査委員長インタビュー 2022年6月5日(日)

新型コロナウイルスの流行、ロシアによるウクライナ侵攻など、様々な困難があったなかで、無事に第8回仙台国際音楽コンクールを開催できたことを喜びたいし、関係者の方々の努力に感謝したいと思います。

仙台国際音楽コンクールは協奏曲を中心に据えたコンクールですので、毎回、課題曲のプログラムをどう配置しようかと頭を悩ませています。今回は予選でバッハ、セミファイナルにロマンティック（ロマン派）の協奏曲を置き、ファイナルではモーツァルトに加え、幅広い時代の作品から選択できるように考えました。結果として上位に入賞した参加者は、ファイナルでバルトーク、ショスタコーヴィチ、シベリウスを選びました。ファイナルでそれぞれの参加者が自分の力を一番発揮できるプログラムとなったのではないかと思います。チャイコフスキーも選択曲の中にはあったのですが、それを選んだ人が誰も残らなかったという結果になりました。ファイナルの演奏曲目が6人も全部違ったのは初めてでしたし、それを演奏するオーケストラも大変だったと思いますが、指揮者の広上淳一さんをはじめ、本当に頑張ってくれたと感謝しています。

コンクールというものは何が起るかわからない側面がありますが、今回は予選からキラキラとした才能を感じさせてくれる若いヴァイオリニストを数多く発見することができました。ただ、それだけでコンクールを制することはできないのも事実で、この結果を踏まえて勉強していただきたいと思います。若い年齢でオーケストラと共演する機会は限られているので、ここでの経験を活かして行って欲しいです。

#### 一入賞者の印象をお聞かせください。

第1位となった中野りなさんは予選から本当に素晴らしい完成度で、ファイナルでもバルトークを見事に弾いてくれました。今後の課題としては、モーツァルトの演奏、そしてバルトークの第2楽章のように、音符の少ない楽章での表現力を磨いて行くことだと思います。そうした音符の少ない箇所こそ、音楽が満ちているのですから。

第2位となったデニス・ガサノフさんに関して言えば同じ審査委員のクレーメルさんやベルキンさんとも話しましたが、現在のロシアの音楽教育システムは以前ほどの水準ではなく、彼はほとんど独学のような形で自分の演奏を磨いているのだと思われます。それだけに「頑固」な部分も演奏のなかにあると思いますが、ショスタコーヴィチの邁進力は凄かったし、メンデルスゾーンの演奏は非常に良く考えられ、丁寧に演奏されていて、久しぶりにメンデルスゾーン作品の美しさに触れた感じがしました。

第2位に並んで入ったマー・ティエンヨウさんはヴァ



イオリンを弾く技術は素晴らしい。ビデオ審査の時から群を抜いていました。ですが、時に「絶叫型」になってしまうところが見受けられました。それが残念でした。またセミファイナルでの「英雄の生涯」の演奏でも、楽譜に細かな感情表現が書かれているのに、それをきちんと表現できていませんでした。それは楽譜の読み込みがまだ足りないということだと思います。

#### 一若い音楽家に望むことは？

今回の参加者全体に言えることですが、もっと楽譜を深く読み込むということを考えなければいけないと思いました。楽譜には、一音一音ちゃんと意味があって、それが書いてあるのだから、それをきちんと読んで欲しいのです。楽譜を読むというのは、自分のパートだけを読むということではなくて、協奏曲の場合、オーケストラのパートもある訳ですから、それを含めて読み込んでいかなければなりません。それを試すために予選ではバッハの協奏曲を課題にしてあるのですが、そこではバスのリズムがどうなっているのか、それを感じ取って自分がどう弾くかを考えなければなりません。それができていない参加者が多かったと思います。

今はYouTubeなどにたくさん映像があって、すぐに演奏の参考にできると考えてしまうかもしれませんが、それだけに頼ってしまうと楽譜を読むということができなくなります。例えば本を読むということを通して、自分でその言葉、文の意味を考える、という姿勢が身に付くはずですので、音楽でもきちんと楽譜を読んで理解するということが大切だと思います。

取材：片桐卓也（音楽ライター）



## —入賞者6名についてお話しください。

第1位のルウオ・ジャチンさんは予選からファイナルの3つの審査段階を通じて、すべてに安定して高い水準を示しました。予選のシューマンのソナタ第1番も雄大でよかったし、『美しき青きドナウ』のパラフレーズは超絶技巧の曲なのに、それをひけらかすことなくとても自然で、皆が楽しめたのはとても凄いことです。セミファイナルのベートーヴェン第2番、ファイナルのモーツァルトのハ長調とプロコフィエフの第2番、どれもよい演奏で、今回の中でもっとも完成度の高いピアニストでした。

第2位のヨナス・アウミラーさんはファイナルで弾いたブラームスの第1番が素晴らしかった。また予選のスクリャービンの『幻想曲』とシューマンの『プレスト・パッションナート』、バッハの『トッカータ』、それから『火の鳥』もよかったし、特にストラヴィンスキーは白眉だったと思います。少々曲によって凹凸がありましたが、個性的なピアニストでした。

第3位の太田糸音さんは、予選のメンデルスゾーンの『スコットランド・ソナタ』が本当によかった。完全に適応・同化した初期ロマン派のスタイルに比べ、現代のプロコフィエフの『4つの練習曲』がやや一本調子で、ファイナルの同じプロコフィエフに不安を感じさせました。ところが、ファイナルのプロコフィエフの協奏曲第3番は予選での心配を覆す見事な演奏で、表現と音のバランスが完全に一致していました。

第4位のジョンファン・キムさんは、音楽的な面とテクニックを併せ持つピアニストで、内面的に深いものを持っています。ファイナルのラフマニノフの第3番はピアノ演奏技術の極限の可能性を示していました。

第5位のキム・ソンヒョンさんですが、ひょっとして想像に過ぎませんが、外野の意見をききすぎて、ファイナル時に迷いが出てしまったのかも知れません。予選の『ショパンの主題による変奏曲』はとても素晴らしかったし、セミファイナルまでは彼の考えた強弱の可能性をよく示していました。ところが、ファイナルの『皇帝』では少々頑張り過ぎてしまったのがとても残念でした。

第6位のジョージ・ハリオノさんは、すでに素晴らしいピアニストで聴衆へのアピール度も大きいものがありました。予選のベートーヴェンのソナタ第18番、ラヴェルの『海原の小舟』、ストラヴィンスキーの『ペトルーシュカからの3楽章』は性格の異なる3曲をよく弾き分けていました。特にペトルーシュカは彼の技術的な可能性を最大限に見せてくれましたし、大変効果的な音楽作りが余裕を持ってできてしまう才能の持ち主。もう一つ音そのものに、魅力がほしいと思いました。

## —ヨナス・アウミラーさんが第2位に終わった理由は？

ファイナルのブラームス第1番はオーケストラとピアノがよく対話して親和性に満ち、素晴らしい演奏でした。ただ音楽によっては彼の持つ極端な弱音や強音などが、うまく機能しない場合もあったのではないのでしょうか。例えばベートーヴェンの第3番ですが、アウミラーさんが舞台上で考えたダイナミクス・プランが少々作品に対して人工的に感じましたし、こうした極端な強弱の弾き方にベートーヴェンとの距離を感じました。



## —同位同列につけることはありますか？

仙台の審査規程は明快な点数システムで、点数が全く同点になった場合は同位同列があり得ますが、今回のファイナルでは同点のコンテストはないませんでした。

## —ファイナルの選抜肢の一つに矢代秋雄の協奏曲が入っていますが、加えたのは野平審査委員長でしょうか？

そうです。コンクール開催国の作曲家の作品を国際的に知ってもらうためには、まずは課題曲リストに入っていて、どんな曲なのだろうと興味を持ってもらうことが大切だからです。外国人のピアニストで選んだ方がお一人いらっしゃいましたが、残念ながら予備審査を通過することはできませんでした。

## —ショパンのエチュードのようなテクニックをみるための曲が課されていませんが、その意義は？

今は一人一人が素晴らしい技術や個性をお持ちで、早晚ショパンのエチュードのテクニックで選別していくようなコンクールは意味のない時代がやってくるでしょう。むしろ伝統的な作品を含めて、レパートリーの適応力が問われる時代なのです。

## —レパートリーを広げるにはどうしたらよいでしょうか？

一人一人がレパートリーに対して興味を持ち、自分で広げていこうとする意識を持つことが重要です。今はレパートリーの転換期で、今回のコンクールでも第二次大戦後の曲がいくつか見られました。今の若い人たちにしたら、モーツァルト、ベートーヴェンはすごく昔の音楽になりつつありますが、何を弾くにせよただ伝統的解釈を引き継ぐだけではなく、本人がその曲のスタイルをこうだ、と今まさに考えていることがきちんと伝わる演奏であってほしいと思っています。

## —高関健マエストロと仙台フィルについて一言お願いします。

どんどん先へ行こうとしてリズムが不安定になりがちな若いコンテストに、素晴らしいサポートで支えていただきました。感謝しかありません。

取材：萩谷由喜子（音楽評論家）

第8回コンクールの演奏をYouTubeでお楽しみいただけます <https://simc.jp/8th-competition/movie/>  
両部門の予選からファイナル、ガラコンサートのオンデマンド配信を9月30日(金)まで行っています。ぜひご視聴ください。